

【小樽間税会 会長賞】

消費税

小樽市立西陵中学校 2年

大川 那々花

税にはさまざまな種類があります。代表的なものでいうと、所得税や法人税、消費税などがあります。その中でも、私たちに一番身近な「消費税」について三つの視点に注目して調べてみました。

一つ目は、役割です。国の消費税は、年金や医療、介護、少子化対策の費用に充てられています。ですが、これらの費用を消費税だけではまかないきれず、毎年多額の公債に頼っています。

二つ目は、世界との比較です。世界で一番消費税率の低い国や地域は、カナダと台湾で5%です。カナダは、消費税が低いだけではなく、日常生活に必要な商品や医療費や薬代などには消費税はかからず非課税あるいは税率0%という施策を採っています。しかし、日本とは異なり、外税が多いです。台湾は、観光産業に力を入れており、外国籍の旅行者を対称に、税金還付制度があります。具体的には、手続き対象店で1日、日本円で約三九六〇〇円以上の買い物をした場合、消費税から手数料十四%分を引いた額が戻ってくる仕組みとなっています。また、世界で一番消費税率の高い国はハンガリーで二十七%です。税率は高

いですが、高福祉で、教育費や医療費、高齢者関連の費用などに関して、国からの恩恵が大きいという特徴があります。

三つ目は、日本の消費税率の推移です。日本の消費税が始まったのは、平成元年の3%からです。平成九年に5%、平成二十六年に8%、令和元年からは10%になっています。主に年金や医療など社会保障の財源確保のため増税となりました。

最後に、三つの視点に注目して調べてみて思ったことは、消費税が少子高齢化の進む日本で増税することは仕方がないと思うけれど、他の国や地域には、税率が低ければ低いに外税を多くするという対策をとっているし、高ければ高いなりに高福祉で、国からの恩恵が大きいという対策をとっているから、日本も今より税率が増えたとしても、そういう対策をとってほしいと思います。また、消費税というものをつくってから、34年という年月が流れて3%から10%にまで上がっているのは、日本の財源確保のためとはいえ、私たち国民には、他の税も納めなくてはならないという義務もあるから、食品自体の金額もあがって、プラス税となると、これから益々生活が苦しくなっていくので、不安です。